

農作物の生育状況と今後の見通し

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	麦	<ul style="list-style-type: none"> ・暖冬の影響で出穂期は3月21日で、平年に比べ2週間以上早かった。 ・3月上旬の茎数は平年比114%とやや多かったが、穂揃期の穂数は平年に比べ少ない傾向。出穂のばらつきが大きく遅れ穂が多い。 ・穂ばらみ期以降の低温遭遇の影響で不稔粒の発生がみられるが、10%未満。 ・一部で網斑病の少発生がみられるほかは、目立った病害や雑草の発生は見られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術情報に基づく排水対策や病害防除の徹底を図る。
	ナシ	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウス栽培の受粉作業は3月29日頃から始まり4月6日頃には終了。 ・露地栽培の受粉作業が早い場所では4月6日頃から始まった(早場の中心は4月7日～10日)。 ・多くの産地で4月8～11日頃に受粉作業が行われ平年より4～5日早い生育となっている(平年の満開日4月15日)。 ・開花の揃いが悪く、花の開花状況に合わせて数回に分け交配が行われている。平場でも4月9日頃に始まり、4月15日、16日で交配が終了する見込み。 ・遅場(佐治)では4月15日、16日から交配が行われる見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、霜害に注意する。 ・黒星病、ケムシの発生に注意する。
	カキ	<ul style="list-style-type: none"> ・河原試験地は、展葉初めが「輝太郎」4月1日(平年4月10日)、「西条」4月6日(平年4月12日)、「富有」4月6日(平年4月11日)で、前年より3～9日早く、平年より5～9日早い生育となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、霜害に注意する。
果樹	ブドウ	<ul style="list-style-type: none"> ・無加温「巨峰」「ピオーネ」「シャインマスカット」は展葉3～5枚程度で、昨年並の生育となっている。 ・無加温「デラウエア」のジベレリン処理は、早い園で4月10日頃から始まっており、センターは16、17日を予定している。(昨年並) ・2～3月は生育が早く進んだが、4月は比較的低温で昨年同様に新梢伸長の揃いが悪い傾向となっている。 ・風害、霜害、目立った病害虫の発生はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き霜害に注意する。 ・ハウスでは春の突風に注意し、バンドの締め直しや傷んだ部分の補強を行う。 ・開花期までは新梢の生育を揃える努力をして、ジベレリンの適期処理をめざす。
	すいか	<ul style="list-style-type: none"> 【ハウス栽培】 ・交配は4月9日頃から始まっており、例年よりも2～3日早い。4月12日～13日は本格交配となったが、低温の影響で花粉の出が悪く、着果不良の恐れがある。 【トンネル栽培】 ・概ね順調で例年並みの生育。定植は4月20日頃まで。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交配は花の状況を確認し、雄花を複数使用し花粉を十分つける。雌花の発育が悪い場合は次の花に交配することも考慮する。 ・一日の中の気温の変化が著しいため、ハウスやトンネルの換気管理をこまめに行う。 ・換気は夕方早めに閉め、保温に努め、交配期間中と果実肥大初期の夜間の保温を徹底する。 ・晴天日(気温の低い場合は特に)は、風下側を換気して急激な気温上昇による葉焼けを起こさないように注意する。 ・病害虫の予防防除を徹底する(特にハウス栽培の菌核病)。
	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 【春ねぎ】 ・生育が進み前倒し出荷となっている。昨年同様に太物中心で出荷が進んでいるが、花芽の進行程度は昨年並みで特に抽台は問題となっていないが、収穫遅れによる棒ネギや抽苔に注意が必要。 ・さび病が例年と比べ発生が例年と比べ多い。 【夏ねぎ】 ・砂丘地のトンネル作型は、被覆除去が例年より10日程度早く3月中旬頃から行われ、ほぼ被覆除去完了。一部でネギアザミウマが発生しているが、概ね順調に生育。 ・他地区では3月下旬から定植が始まり、生育は順調。 【秋冬ねぎ】 育苗は順調。水田転換畑では4月1日、4月13日の大雨でほ場準備が遅れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春ねぎは花柱の状況を確認しながら、抽台までに出荷できるよう作業する。 ・気温の上昇とともに首の緩みによる春腐病の増加や、さび病・べと病の発生、アザミウマ類、ネギハモグリバエが急速に増加するため、4月下旬以降の防除を徹底する。 ・水田転換畑では定植予定のほ場の排水対策を徹底する。 ・定植後の乾燥は初期生育の停滞につながるため、必要に応じて灌水する。
野菜	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> 【初夏どり】 ・3月2日から始まった定植は4月15日で終了。 ・3月の早い時期での定植は生育が進んでいるが、3月下旬以降の定植は4月以降気温が低く推移しているため、生育が平年よりも2～3日遅れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月上旬から収穫となる見込み。
	らっきょう	<ul style="list-style-type: none"> ・平年よりも分球数が多く、m球重が多いが、大玉で豊作年であった昨年よりは少ない。 ・福部地区生育調査(4月10日)は、 m球重: 平年比127%、昨年比92% m球数: 平年比122%、昨年比123% 1株分球数: 平年比117%、昨年比134% 1株球重: 平年比123%、昨年比100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・灰色カビ病の防除を徹底し、健全葉の確保に努める。 ・今後、降雨が無く乾燥が続く場合は、積極的に灌水し、玉肥大を確保する。
	トマト(促成)	<ul style="list-style-type: none"> ・倉吉大原地区では、4月6日から出荷が始まっており、前年よりも1週間程度早く前倒し出荷となっている。 ・一部で灰色かび病、輪紋病の発生がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病が蔓延しないよう、予防防除と耕種防除(花がら及び枯葉の除去)を徹底する。
	アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> ・萌芽が平年よりも1週間程度早い。現在はハウス栽培が出荷中。 	<ul style="list-style-type: none"> 露地栽培は4月下旬から本格出荷となる見込み。
	にんじん(春どり)	<ul style="list-style-type: none"> ・播種2月末頃から3月上旬で終了。不織布べたがけしている。 ・萌芽は良好だが生育は昨年より遅れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月下旬ごろから不織布の除去と追肥、間引き、防除(黒葉枯病対策)を行う。
	シンテッポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> 【露地作型】 【東部地区】 ・全域で発芽率が70%程度であることに加え、発芽後の生育が緩慢であるうえに枯死が多発し、子葉展開までに至らないものが多発した。その結果、大部分の生産者は苗がない状況。 ・JA他からの育苗を受託する智頭町の生産者も、成苗率は低く、供給数量を減らざるを得ない状況。 ・種苗メーカー(ムラカミシード)が受注し育苗している苗の状態も良くないことも明らかになっている。 ・鳥取市でも育苗を中止し、自家苗はない状況。 ・智頭町では彼岸出し作型の育苗中。F1オーガスタの生育はおとり、成苗率は低いが、白棲2型は順調に生育している。 【中部地区】 ・倉吉市の盆出荷作型では、主要品種(F1オーガスタ)の発芽・生育が非常に悪く、成苗率が著しく低いため、苗数は大幅に不足している。「優雅晩生」の発芽・生育は例年より劣るものの、本葉2枚程度になっている。ユリの減少分はコギクを増やすことにしている。 ・一部生育が優れる部分があり(2袋分)、葉枚数は2.5～3.5枚程度。4月末～5月上旬に定植予定。 ・北栄町では、露地出荷作型2戸のうち1戸は4月上旬から定植開始。他の1戸は自家育苗できず、ハウス抑制作型の切り下球(切り花収穫後に地中に残る球根)を4月中旬に定植する。 ・彼岸出し作型の1戸は、現在育苗中。 【ハウス抑制作型】 【中部地区】 ・倉吉市の1戸は、4月5日に冷蔵庫から出庫。まだ発芽は確認していない。 ・北栄町の家庭用冷蔵庫を利用する1戸は、現在播種中。 ・同じく北栄町の8戸+苗受託者が3月中旬から播種開始。10日程度種子冷蔵後、随時出庫し、育苗を開始している。生産者により発芽スピードに差があるが、中国産種子は出庫後概ね14日程度かかっている。(例年より3～4日程度遅い)。育苗を受託者ほ場では順調に発芽中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・智頭町生産者の供給量は、予定数量の半数になる見込み。 ・メーカー発注も不足することは明らかで、苗の不足により生産量は大幅に減少する見込み。 ・一部の生産者は作付け規模を縮小し、少量の購入苗で対応する予定。定植は4月下旬頃の予定。 ・盆出荷作型では、発芽不良・生育不良のため、過失にならないよう灌水管理に注意が必要。また、葉面散布を積極的に行い、液肥施用も定期的実施する。 ・彼岸出し作型は6月上旬定植予定。 <ul style="list-style-type: none"> ・倉吉市の生産者の定植本数は、当初予定の1/10(1a程度)の面積となる見込み。「優雅晩生」は例年の7～8割程度定植できる見込み。
	リンドウ	<ul style="list-style-type: none"> 【智頭町】 ・例年になく萌芽が早く、標高に関わらず、3/27には草丈10～30cm程度となっている。例年より2～3週間程度、前年より1～2週間程度生育が早いと思われたが、4月に入ってからの低温によりやや生育停滞気味となっている。 【三朝町】 ・2年生株、3年生株ともほぼ順調に生育しており、揃った萌芽がみられる。 ・標高が低い圃場(90m)では草丈30cm～40cm、標高が高いほ場(500m)でも10～25cmになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スリップス等の早期発生が予想されることから、防除を指導する。 ・茎の整理(間引き)と欠株の補植を行う予定。 ・定期防除を徹底する(褐斑病、スリップス等)。
畜産	飼料用トウモロコシ	<ul style="list-style-type: none"> 【大山地区】 作付けのため堆肥散布中。 	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 4月下旬に播種開始予定 【大山地区】 4月下旬に播種開始予定
	イタリアンライグラス	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 生育は順調で生育ステージが出穂期に入ったほ場も散見される。 【東部地区】 一部ほ場で4月7日収穫開始。 【大山地区】 生育は順調。 【西部地区】 生育は平年以上に進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 4月下旬～5月上旬に収穫開始の見込み。 【東部地区】 4月下旬から本格的に収穫開始の見込み。 【大山地区】 4月中旬から収穫開始の見込み。 【西部地区】 出穂が近い様子で平年より収穫開始が早まる見込み。
その他	農作業安全	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年4月16日広島地方気象台発表の中国地方1か月予報によると、4月18日から5月1日の気温は平年より低く、5月2日から5月15日は平年並みと予想されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春先は身体が暑さに慣れていないため、農作業中の熱中症には注意する。 ・体調が悪い時には、農作業を行わないようにする。 ・農作業中は30分ごとに休憩をとり、コップ1杯の水分を補給する。 ・農作業の前後にも水分の補給をする。 ・特に農業用ハウス内での作業には注意が必要。